

【令和4年度(2022年度)審判員の目標】

令和4年(2022年)1月30日

(公財)日本ハンドボール協会 競技・審判本部
指導普及本部

1 『審判員の心得 10箇条』

- | | |
|-------------|------------|
| ① リーダーシップ | ⑥ 身体上の適正 |
| ② 誠実さ | ⑦ ユーモアのセンス |
| ③ ルールに関する知識 | ⑧ 勇気 |
| ④ 冷静さ | ⑨ 協調性 |
| ⑤ 正しい判断 | ⑩ 仲間意識 |

2 『コンタクトプレーを正しく見極める』

ハードプレーとラフプレーの見極め(競技規則 8:1 ~ 8:3)

競技規則第8条「相手に対する動作」は攻撃側、防御側の双方に適用する。レフェリーは、身体接触の際、両者の位置関係(先に位置をとっていたのはどちらのプレーヤーなのか)と、違反があった場合は、その違反を受けたプレーヤーへの影響を正しく見極めなければならない。

- ① プレーヤーが、競技規則8の1に該当する行為ではなく、不利な位置(横や後ろ)からボールを対象とせず)相手プレーヤーに接触したならば、競技規則8の2、8の3の判断基準をもとにラフプレーとして判断する。
- ② 競技規則の適用については、競技規則8の3(d)に記載されている「違反行為の影響」を見極めること。違反を受けたプレーヤーがボディーコントロールを失っていないかどうか、すぐに帰陣できないほどの影響があるかを見極める。もしも、違反はあったが、その違反を受けたプレーヤーがボールと身体を完全にコントロールしている状態ならば、アドバンテージを適用してスピーディーなゲーム展開となるよう、安易に競技を中断してはならない。また、違反を受けたプレーヤーへの影響を見極め、カテゴリーに応じて罰則を適用するかどうかの判断をする。(モダンハンドボールの考え方)

< 研究課題 >

- ◆ **安心・安全なゲーム運営を心掛ける。安心・安全な試合をマネジメントするための言葉かけの工夫。**
- ◆ モダンハンドボールの考え方については、**各連盟、カテゴリーの実態に応じて適用**する。
- ◆ スピーディーなゲーム展開となるよう競技規則を適切に運用し、**特に、試合開始15分間で基準を示し、試合を管理する。これには、笛を吹かない判定も含まれる。**
- ◆ コーチ、プレーヤーと良好なコミュニケーションの取り方。ボディーランゲージ(Body Language)の仕方。判断基準をもとに**判定の根拠を適切に口頭で説明**できるようにする。
- ◆ **ゴールエリアライン際の判定は全てゴールレフェリーが判定する。**ただし、ゴールエリアライン際のピボットの攻防は、**どのプレーヤーが最初に違反したかを見極めゴールレフェリーとコートレフェリーが連携**し、管理をする。このような場面では特に、**通信機器を有効活用**する。